



森ボラ 通信

第261号 2024年2月20日発行
NPO 法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター

TEL (fax.): (011) 816 - 7010

E-mail: hshinrin2002@nifty.com

■ 寄稿

澄川の森について

今私たちは澄川環境林を市から借り受け、活動を続けています。たまたま森ボラ図書館から『澄川ものがたり』*1という郷土誌を借りてきました。読んでいるうちに、私たちが今丁度北地区の落葉松の処理に取り組み始めたところです。その場所であろうと思われる記述が随所に書かれています。興味深かったので抜粋しました。

明治5年: 開拓使本庁や真駒内種羊場建設のために精進川沿いの原生林に官林伐採が始まり、明治6年に今の自衛隊前駅に木挽き小屋や居小屋など4棟が作られた。開拓使黒田清隆は米人顧問ケプロンの献言により、札幌本庁建設の資材調達のため、厚別山水車器械所を造り明治13年2月から製材を開始した。器械場からは初め牛の背によって、後に馬車で丘陵の尾根伝いに、現在私たちが活動地の前を通過して澄川中学校、澄川小学校を経て、天神山麓で平岸道路に出た。これが器械場通りの始まりです。明治23年水車による製材器械場が閉鎖されるが、閉鎖後も現在の澄川厚別通線として利用されている。



カマツの倒木、傾斜木の状況(2022年7月)

明治29年: 豊平村の阿部与之助が官林伐採跡地の貸下げを受ける。澄川丘陵一帯南北5~6km、240haの広大な面積、澄川小学校裏から駒岡との境辺まで。

阿部造林事業で働いていた吉田庄蔵は富山県出身、自ら信州の落葉松種子を取寄せ、苗圃を作る。官林伐採跡の大きな切株、雑木の伐採、管理、植林するため、伐採する杣夫*2や炭を焼く人、植林の人夫などが次第に半労務、半農の形で精進川沿いに丸太小屋を建て暮らした。



カマツ整理伐後の状況(2023年11月)

この地域の小沢近くには、大きな炭焼き窯跡が多く見られるが、炭を焼くのに水を必要としたことや、集材や運搬に小沢が都合であったようだ。また、苗木の植え付けや成長した落葉松の下枝刈は大変な仕事であったと言

う。明治30年~大正元年に及ぶ大規模な落葉松の植栽は後の道内屈指の見事な美林として名を馳せた。**昭和9年:** 澄川丘陵一帯の阿部造林30年余年を経た落葉松美林は、北海道炭鉱汽船(株)が立木を一括買収し3年掛で炭坑用坑木として皆伐し、定山溪鉄道真駒内駅にうず高く積み上げられた。**昭和13年:** 阿部造林は2度目の落葉松を植栽する。

今私たちが見ている北地区の落葉松が昭和13年に植えられたものとなれば、樹齢83年にもなります。立枯れ、中折れがほとんどで、昔言われていたような美林には程遠い状態になっています。

永い歴史の中いろいろな苦難があり、変遷を経て今こうして木々を眺めていると考え深いものがあります。(文・西野澄子)

参考文献 *1 郷土誌『澄川ものがたり』(平成14年3月 澄川地区連合会 郷土誌編集特別委員会)

*2 杣夫: そまふ。植林して材木を切り出す人。きこり)

◆第1樹木園の2回目の間伐が始まる

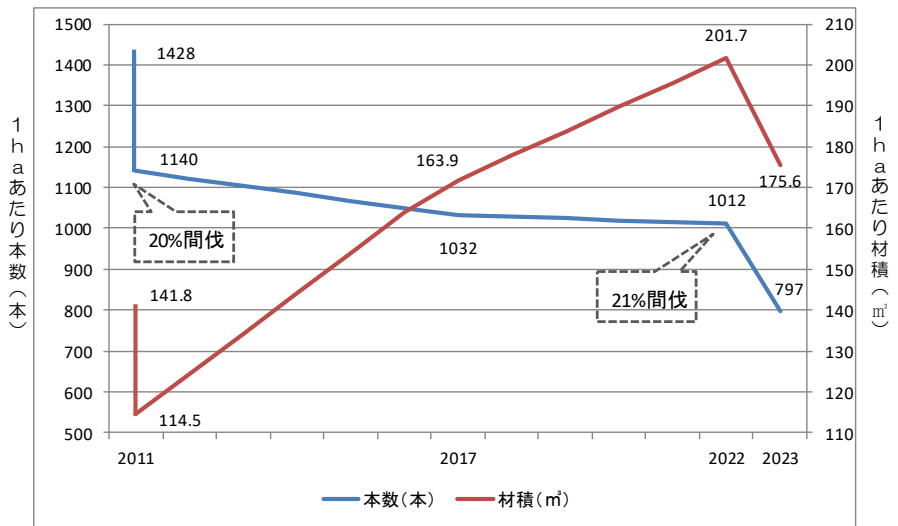
A-3区にある第1樹木園は2011年に設定されましたが、当初園内には直径5cm以上の木が357本（総材積35.4 m³1本当たり0.099 m³）ありました。それを同年に間伐を行い、72本20%の木を除去して保存木を285本（総材積28.6 m³1本当たり0.1 m³）としました。それが6年後の2017年の調査では、258本（総材積43.4 m³1本当たり0.168 m³）となっていました。

2021年6月の幹事会で、第1樹木園を多種の木々がありその生長を観察出来る処として更に整備していくことが決まり、会員例会でも説明してきました。この方針に基づき2022年に毎木調査を行った結果、第1樹木園は総本数268本、総材積53.4 m³（1本当たり0.199 m³）でした。

樹木園整備の第一段階として間伐を行うための選木調査が翌2023年7月に行われ、間伐対象木を57本選びました。これを間伐した場合の間伐割合は本数で21.3%、材積で13%です。そして、この1月28日から樹木園の間伐が開始されたのです。2月6日時点での進捗率は58%で、2月中には完了する予定です。

今回の間伐が完了した段階での第1樹木園の姿を、これまでの経過を含めて1ha当りの本数、材積に換算してグラフで表すと

図の折れ線グラフのようになります。2021年の幹事会では、第1樹木園を最終的には500本/ha水準の140本程度にすることを目標にしています。そして、園内に「澄川ふるさとの樹木20種」の他、澄川の森にある他の樹木や北海道の代表的樹木が観察できるように、現在無い樹種を植栽して観察樹種を増やしていくことにしています。今後も林床に花々が咲く樹木園になることを楽しみながら整備を続けていきたいと思っています。（文・清澤）



中折れ傾斜木の整理伐



人力による集材

◆1月冬季セミナー報告

1月17日(水)札幌エルプラザ2F環境研修室にて、第2回冬季セミナーを開催したので概要を報告します。

会員例会では「各地の生長調査」として樫棒が今年度調査の中からまとめて発表しました。次は三橋さんの「澄川の自然」で撮りためた膨大なデータの中から厳選し、花、鳥、小動物など澄川環境林で見られるいきものを詳細に説明しました。



三橋さんの発表

第二部は外部講師による講演で、講師は(株)建設環境研究所酒巻支店長代理で演題は「川の環境を調べる」です。酒巻さんは一昨年から我々の行っている右精進川水質調査の主に水生昆虫の同定の指導していただいております、建設コンサルタントとして、海洋での環境モニタリング、全国の一級河川やダムなどの生物調査・解析・提言などに携わってこられました。

◎以下講演の概要です。

I.河川の水を評価する：きれいな川、汚い川のイメージとして水質が取り上げられ、「水質とは、不純物が含まれることで生じる水の状態」といえる。様々な環境基準が「環境基本法」に基づき決められている。

II.右精進川水質調査結果：右精進川は水質調査結果からみて、人の生活の影響を受けている河川中流程度の環境に相当し、札幌市内の河川と比較すると、豊平川の真駒内川合流部付近と同程度とわかれる。

III.水の中の生物からみた川の環境：水の中の生物としてサンショウウオなどの脊椎動物、アメンボなどの昆虫の成虫、カゲロウなどの昆虫の幼虫、ヨコエビなどの昆虫以外の無脊椎動物それに水草などの植物があげられる。水生生物はそれぞれ好きな水質、河床、流速、水深、水温などがあり、どのような水生生物が居るかによって、その場所の水質の状況を知ることができる。化学的な水質分析がその瞬間の水質の値に過ぎないのに対し、比較的長い期間の水質の状況を知ることができる。生物を使った水質判定方法は様々あるが、当会でも使用している「日本版平均スコア法」は、専門家でなくても扱いやすく、市民感覚と専門家分析を繋ぐ方法として普及している。

IV.右精進川の生物調査結果からわかること：これまでの調査結果から右精進川は市街地に隣接する「山麓ゾーン」に位置するものの、水生生物にとっては比較的良好な環境にあることを示している。

V.右精進川はどんな川であればよいのか？：「山麓ゾーン」とは、自然林や二次林が多く、身近な生き物の主要な生息地として市民が自然とふれあう場として重要な区域、今後も自然性の高い二次林の保全や適正管理を図っていくことが重要となる。

次にホタルについては、北海道で分布している光るホタルはヘイケボタルI種のみである。ヘイケボタルは清流ではなく、里山の流れの穏やかな小川や水田、湿地に生息し、山間部の溪流にはいない。重要なのはホタルが生息できる環境を保全すること。ホタルだけでなく、その他の昔から生息する生物全体を保全していくことが、右精進川の自然保護に繋がる。

酒巻さんには今後の我々の活動に、大きな示唆に富んだ内容の講演をしていただきありがとうございました。今年は親子森林教室の指導も担当していただく予定です。これからもよろしくお願いいたします。(文・榎棒)



酒巻さんの講演



講演会場の様子

■ 澄川の自然 54

森のシルエット

朝方、静かに降った雪のおかげで森の中は縞模様の羽二重に包まれておめかししている様でした。

冬の森では樹木の幹に視線を向けがちですがこの日の主役は樹木の作る影でした。(写真・文/老田)

撮影：2024.1.25/11:45 C2地区

(樹木園からの帰り、中流橋を渡り集合場所へ戻る左手斜面)



■今月の幹事会

出席者(2/7):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・松藤・矢野・西野(澄)・平・早坂・老田

1. 2024年3,4月活動スケジュール(3月幹事会3/6(水)):了承
2. 2024年1月会計報告:了承
3. 2023年度森林・山林多面交付金事業1月(最終)報告:了承
4. 2023年度第6回親子森林教室スケジュールと2024年度第9期参加予定者:スケジュールを了承。
新年度は12家族17名(新規16名、継続1名)でスタート。
5. 樹木園整備:2011年調査から12年が経過。本数は13%減、材積は76%増。今年度は57本間伐。
6. 札幌市打ち合わせ報告:北地区の札幌市2024年度作業は作業道の延伸、間伐調査、搬出路確定。
2025年度は間伐作業。当会は2024年度多面事業活動を継続。
7. 現場報告
 - ・澄川整理伐状況:樹木園間伐対象木本数の約60%終了。
8. その他
 - ・森ボラ新ホームページ進捗報告:了承
 - ・気候変動による活動中止の判断基準:林業における安全作業基本事項を参考に、札幌管区気象の
警報、注意報に留意しながら判断。今後も継続して検討。
 - ・業務用PCの購入:了承
 - ・2024年度の計画(活動予定、体制、主要活動):活動予定、主要活動に大きな変わりはない。体制は
皆様のご協力が必要になります。継続検討。

■活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
1月17日(水)	札幌エルプラザ2F	20	第2回冬季セミナー(会員例会、講演)
1月19日(金)	澄川	12	除雪、屋根雪下ろし、多面定点観測
1月22日(月)	澄川	13	A-3 樹木園間伐準備
1月25日(木)	澄川	-	吹雪のため活動中止
1月28日(日)	澄川	12	A-3 樹木園間伐、E地区避難小屋雪下ろし
1月31日(水)	澄川	13	A-3 樹木園間伐・集材
2月3日(土)	澄川	10	A-3 樹木園集材、親子森林教室準備
2月6日(火)	澄川	11	A-3 樹木園間伐、澄川南小観察会中止
2月7日(水)	ラルズ生活研究C、2F	11	幹事会
2月9日(金)	澄川	16	A-3 樹木園間伐、親子森林教室準備
2月11日(日)	澄川	-	大雪警報により活動中止、親子森林教室は2/18順延
2月13日(火)	札幌エルプラザ2F	20	第3回冬季セミナー(会員例会、講演)
2月15日(木)	澄川	8	A-3 樹木園間伐、親子森林教室準備